

2023年度（令和5年度）教育課程特例校実施状況について（自己評価・学校関係者評価）

国本女子中学校

自己評価

項目	教員スタッフ・指導体制	カリキュラム・授業	生徒の成長	対外的情報提供	その他
現状分析・ 反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤の外国人教員が6名勤務している。内、カナダ・アルバータ州の教員免許所持者が4名勤務しており、それぞれ、理科、数学、社会、体育、ELAを主な担当科目としており、英語による教科学習を行う態勢が完成している。 ・アルバータ州の教員免許保持者は全員日本の特別免許も保持し、アルバータ州が単独で英語で教科指導ができる体制を整えている。 ・英語学習ルームを設け、放課後はアルバータ州教員、JETプログラムのALTが常駐し、生徒の質問や英会話学習、英検や他の英語資格対策にあたった。 ・各ホームルームにもアルバータ州教員が副担任として入ること、授業だけではなく日常生活からも英語を学ぶ学習環境を提供できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校では教育課程特例校制度でイメージ教育が可能になったことにより、1年次より英語による教科学習を取り入れている。それにより、高校での日本・カナダ融合教育課程（ダブルディプロマプログラム）での学びに接続できる教育課程を編成することができた。 ・講義型ではなく、生徒の主體的な学びを実践する授業展開すべての授業で実践するよう心がけることができた。 ・生徒一人ひとりの英語力の差に対応して英語はすべて習熟度別クラスに編成した。 ・英語「を」学ぶことを目的にせず、英語「で」学ぶ教科学習を帰国生から英語初学者までに行うことが、すべての英語学習者にとって有効であることが確認できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校段階で、英検準1級や2級に合格している生徒がいることは他の刺激になった。 ・英語自体を学ぶことにはもちろん、イメージ教育を行うことで、英語で教科を学ぶ意識を身に着けることができ、高校課程で本格的に始まるアルバータ州プログラムへの効果的な接続が可能になった。 ・中学校3年生がカナダ・語学研修を行う際にも、イメージ教育の成果を発揮したいという生徒の良い動機付けになっている。 ・中学校において特例校の授業を受けた1期生（現高校2年生）がカナダ・アルバータ州1年留学に5名参加し、現地校の授業をスムーズに受けることができていることは現中学生の刺激になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特例校の中核であるダブルディプロマコースとしては年間を通じて広報活動を行ってきたが、特例校としての対外的な情報発信の面ではやや欠けた面もあった。 ・X, Instagram,などのSNSを活用し、特例校指定を受けたイメージ教育の授業の様子を発信した。 ・保護者には毎回の保護者会で生徒の成長の様子、特例校制度における授業の様子などを逐次、伝えた。 ・イメージ教育の教科学習は通常の通知表に加えて、アルバータ州認定教員が生徒の学習状況を説明するレポートを作成し、保護者に周知した。 	・特になし

学校関係者評価

項目	総合
意見・要望	<ul style="list-style-type: none"> ・英語イメージョン授業を受けることで大学入試における一般選抜に対応ができるかに不安を持っている生徒がいる。 ・英語「を」学ぶこと自体を目的とせず、英語で教科学習をするためのイメージョン教育はこれからのグローバル時代に合った教育方法だと思う。 ・イメージョン教育を取り入れることで、授業数が増え、特に部活動に取り組んでいる生徒に過負担が生じる場面もあった。 ・ネイティブ教員が放課後までしっかり指導してくれていることに満足している。 ・英語による教科学習により日々の授業の中で、英語のシャワーを浴びる機会があったのは良かった。 ・カナダにおける3週間の語学研修ではイメージョン教育の成果が活かされていたと感じる。